

“デアウ × ツナガル × カンガエル”
共に未来をデザインする



岐阜県恵那市役所 恵那市地域包括支援センター
精神保健福祉士 社会福祉士 足立 哲也

恵那市は
どんなまち？

■ 人口:51,249人 (平成29年4月1日現在)

□ 高齢者人口 16,953人

□ 高齢化率 33.07%

人口減少・高齢化が進んでいます

■ 日常生活圏域数 3圏域

■ 包括支援センター(直営)1カ所 市役所内

■ 認知症地域支援推進員

H24年に2人設置。H25年に2人H28年に2人が修了。

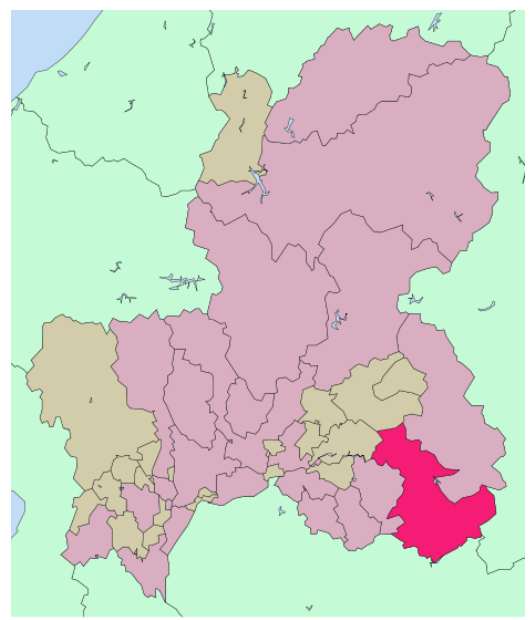
うち2人が中心に現在地域包括支援センターで活動中。。。

恵那市の概要(2)

恵那市は、名古屋市の中心部からおよそ60キロメートル、岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域です。

東には恵那山、北には笠置山に囲まれ、また山あいには木曾川や阿木川、矢作川などが流れ、四季折々の姿を楽しむことができます。

歴史的な観光資源としては、中心市街地を横断する中山道大井宿、南部には800年の歴史を持つ女城主の城下町の岩村町、レトロな雰囲気漂う日本大正村がある明智町があります。



恵那市で行なう 認知症支援施策

- 認知症の人と家族のつどい
 - 認知症サポーターの養成・認知症ケア人材の養成
 - 若年性認知症に対する支援
 - 認知症の人を支援する関係者の連携強化
 - 徘徊高齢者位置探索端末機の貸付
 - 認知症カフェ
 - 回想法研修
 - 回想法スクール
 - 認知症支援多職種連携事業
 - 認知症ケアパス作成
 - 認知症初期集中支援チームの設置
 - 認知症地域支援推進員の配置
- (第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画(平成27年度～29年度)より)
- … 赤字 認知症地域支援推進員が主となって行っている事業
 - … ■ 本日、報告する内容(主に人と人をつなぐ事業)に関すること

市から求められている
推進員の役割について

- 1) 認知症の人と医療機関・介護サービス・地域の支援機関をつなぐ
コーディネーターの役割
- 2) 認知症本人と家族が参加できる事業の開催

多職種・多業種協働による
新しい社会資源・ネットワークづくり

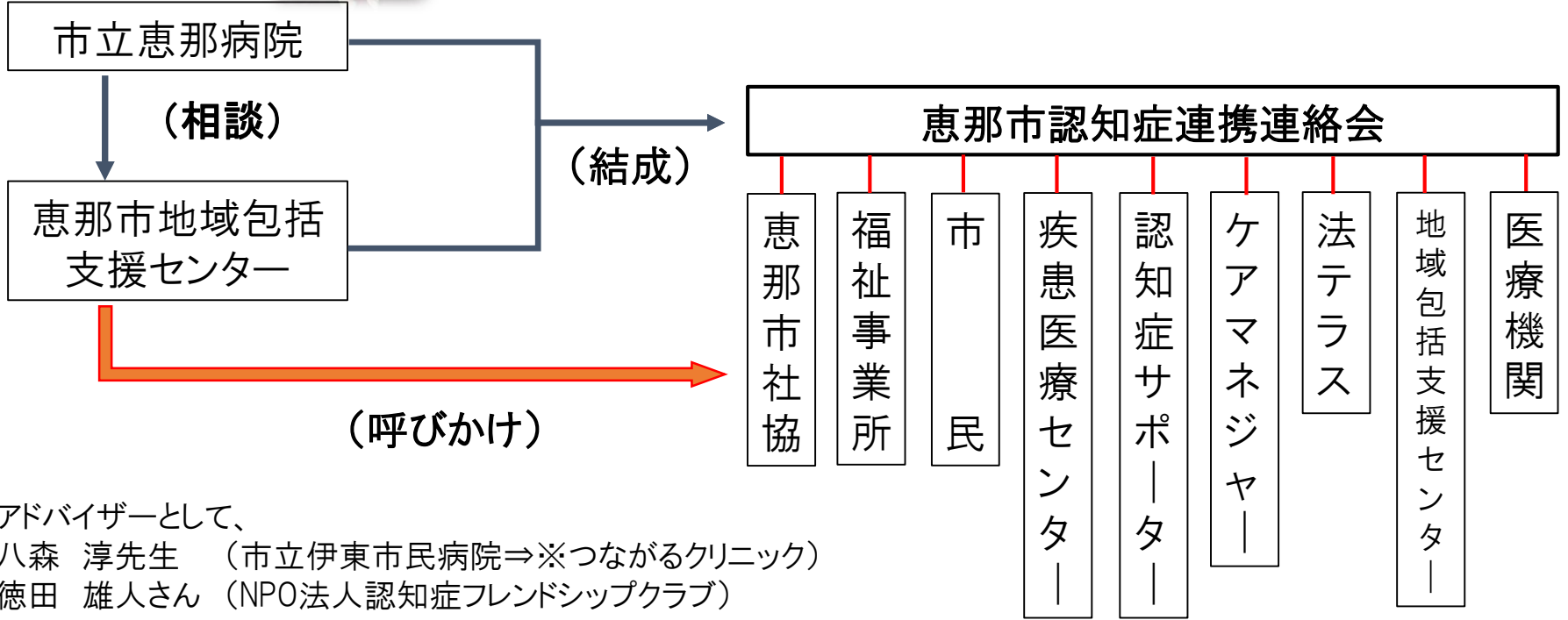
恵那市の認知症支援施策は、医療・福祉専門職の多職種ネットワークが基礎になっています。

【きっかけ】

平成21年からはじまった「認知症連携連絡会」
市立病院のもの忘れ外来を担当する細江医師からの相談で
地域包括支援センターの声かけによって結成。



『もの忘れ外来をやってきたけど、実際の患者の生活の様子が見えてこない』



アドバイザーとして、
八森 淳先生 (市立伊東市民病院⇒※つながるクリニック)
徳田 雄人さん (NPO法人認知症フレンドシップクラブ)

『市内の多職種専門職が集う場』に

結成当初の連絡会の内容・・・

話し合う内容については、その都度その都度みんなで考えて決めていた。

たとえば・・・

□当事者(介護家族)の話を聴く

□地域の支え合い団体から話を聴く

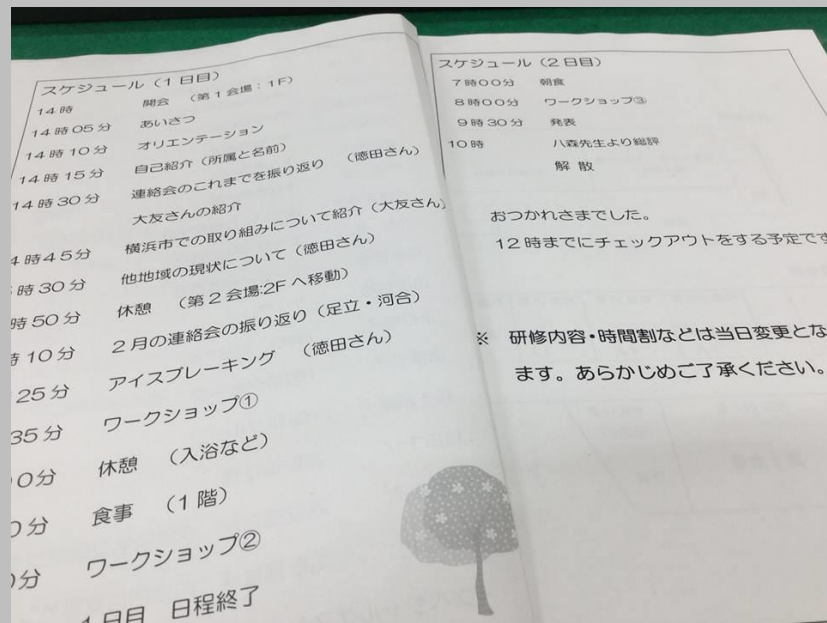
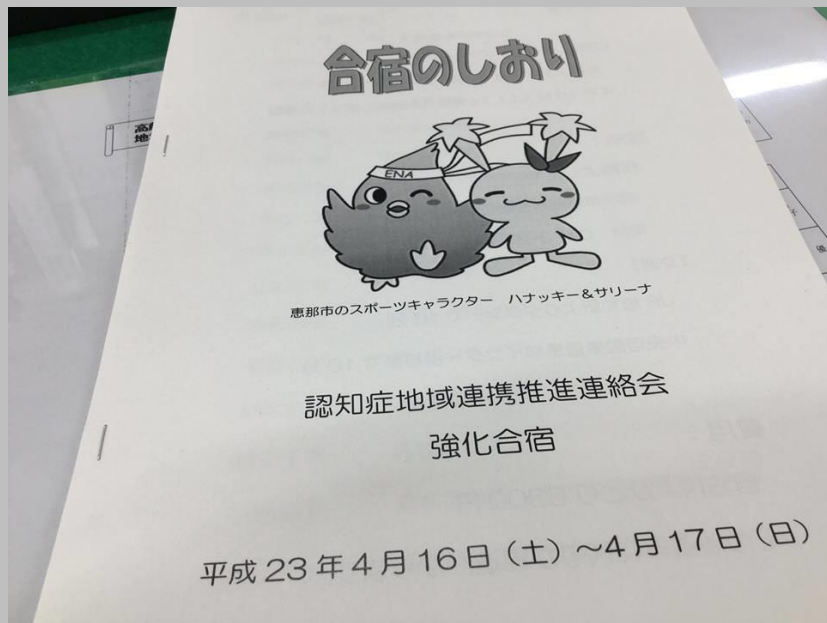
⇒多職種連携ネットワークから、自分たちができることを考えた。

□もの忘れ外来家族会の結成

⇒病院で行っている「もの忘れ外来」を受診している家族に声をかけて家族会を結成。
スタッフは連絡会のメンバー。

(病院看護師・MSW・医師、地域包括支援センター職員、グループホーム職員)

平成23年4月にメンバーで(強化)合宿を実施。(市内の民宿にて)



合宿から生まれたアイデアたち(その1)

□認知症になっても安心して外出できる喫茶店・カフェの発想。



合宿から生まれたアイデアたち(その2)

居場所・役割⇒本人が望む生活ができる。

- マラソンを通じた、市民の意識の改革。
- 関係者同士の事例検討会の定着。



認知症地域支援推進員としての 活動報告

【ささゆりカフェをはじめのきっかけ】

はじまりは、認知症連携連絡会から始めた
『もの忘れ外来家族会』（H22.10～）から…

2ヶ月に1回の開催。

- 患者家族 4名から6名の少人数参加
- 病院スタッフ（医療相談員、外来看護師など）
- 包括支援センタースタッフ
- グループホームスタッフ

□参加者の声を聴き、年に1回外出行事を実施。

平成23年10月の企画として施設見学・交流（GHなど）
平成24年10月の企画として回想法センター・大正村散策

オレンジプランから
合宿のことを思い出す…

平成25年10月の企画としてカフェをスタート
（参加対象を広げて、誰でも参加できる憩いの場を）

【ささゆりカフェをはじめのきっかけ】

『市民に広く知ってもらえて、親しみのあるカフェづくり』

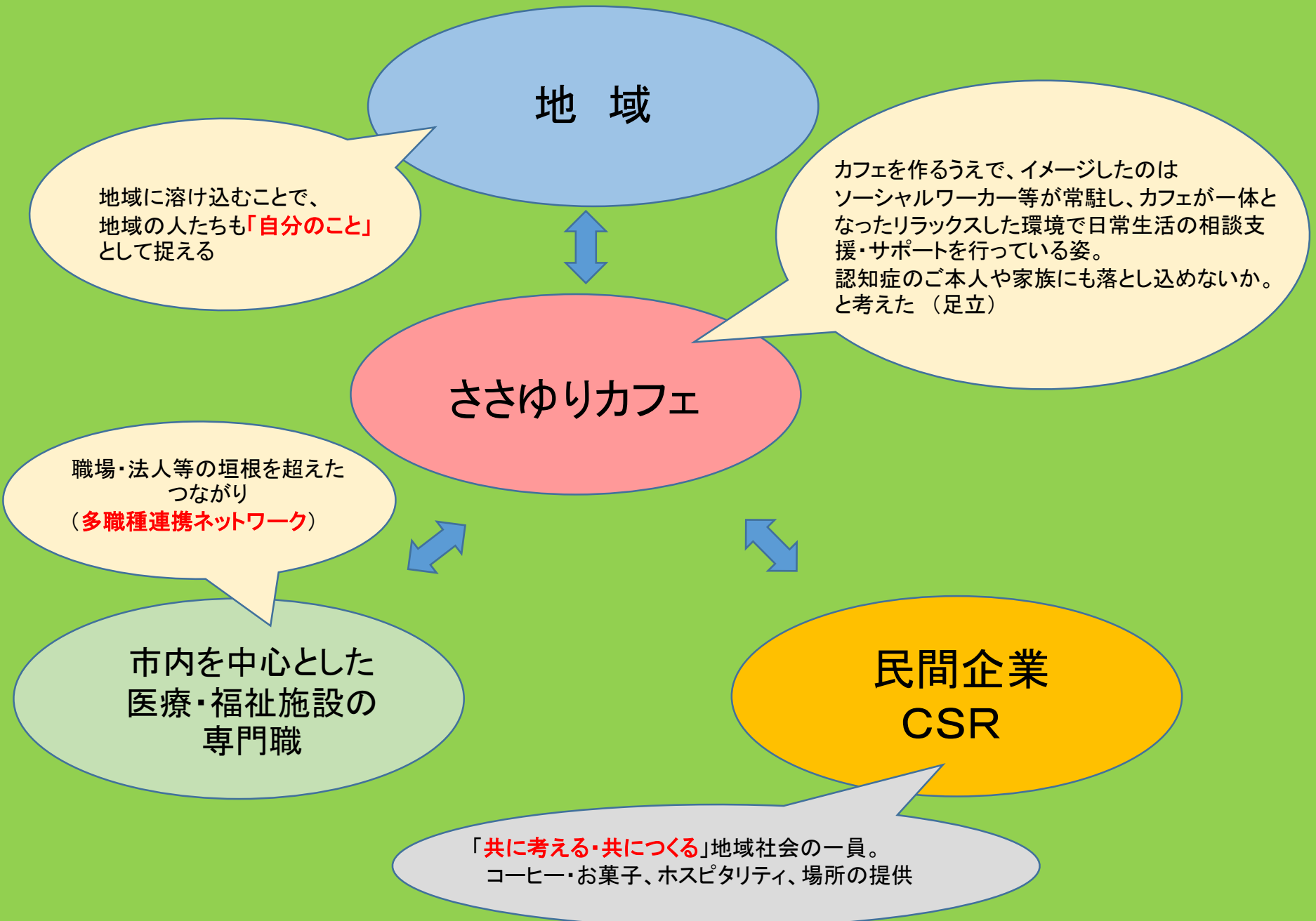
⇒「スターバックスコーヒーとの出会い」

・・・これまで色々な事業を企画してきたが、当事者の一部には知ってもらえるが、市民全体への浸透は難しかった。

市立恵那病院にボランティアで出入りしているのを何度か見かけていて個人的にもすごく気になっていた。

⇒店舗に電話を入れて企画持ち込みの日程調整

カフェをつくる上での当時のわたしのイメージ



【ささゆりカフェをはじめるきっかけ】



(平成25年9月 店舗へ企画持ち込み)



【カフェの特徴】

日時： 平日の午後2時から4時（出入り自由） 年8回

ばしょ： 固定せず、市内を巡回する

料金： 無料

内容： 決まったプログラムはつukらない。
参加者同士のつながり・会話を大切にする。
個別相談も実施。

スタッフ： 包括職員・MSW、ケアマネジャー、医師、
看護師・スターバックスコーヒージャパンなど



Person 1: Standing, white polo shirt, name tag.

Person 2: Standing, green Starbucks apron over a dark shirt.

Person 3: Standing, green Starbucks apron over a dark shirt.

Person 4: Standing, dark blue polo shirt, name tag.

Person 5: Standing, striped polo shirt, name tag, making a peace sign.

Person 6: Standing, light blue and white striped polo shirt.

Person 7: Standing, grey t-shirt with "NEW YORK 9" printed on it.

Person 8: Standing, dark blue polo shirt, name tag, making a peace sign.

Person 9: Kneeling, white polo shirt with a white collar, glasses, striped pants.

Person 10: Kneeling, dark blue polo shirt, name tag.

Person 11: Kneeling, white polo shirt, light-colored pants.

Person 12: Kneeling, white polo shirt, dark pants.

Person 13: Kneeling, dark green and black striped polo shirt, dark pants.

Person 14: Kneeling, dark blue polo shirt, light-colored pants.

Person 15: Kneeling, white t-shirt with a graphic that says "The History of 1921", glasses, dark pants.



打ち合わせは、昼食をとりながら、
今日の参加者の人数や
事前相談の希望の有無など確認



どんな方が参加予定か？
把握していると、
きめ細かい対応ができるように。





初回：市立恵那病院内 喫茶ブルームにて



担当医師も参加
「ご主人の普段の
様子は？」





「認知症サポーター」のいるコープぎふ恵那店へ出向いて企画を持ちかけて・・・



市役所の近くに建っている住宅展示場で
できたら、雰囲気もいいような気がする！



住宅展示場の運営団体に話しを持ちかける



「トイレや受け入れ人数のことを考えると、
もっと広い場所がありますよ。」と
材木組合が所有している会場をお借りするこ
とに。



結婚式場の会場にて。

市役所にチャリティー企画の義援金の受け入れの相談に来られた結婚式場のスタッフに、ささゆりカフェの企画を持ちかけて実現。



今年4月に初めて図書館で開催。

読んでもらいたい本がある。

市長も参加して、対話を楽しむ。

「認知症にやさしい図書館」へ



ささゆりカフェは、認知症の人や家族、もの忘れが気になる方、気の合うお友達を探してみえる方など どなたでもコーヒーを飲みながらくつろげる憩いの場。医療や福祉の専門職がスタッフなので、いろんな話や相談もできます。出入りは自由、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

今年5月は、お寺で開催。

地域に開かれたお寺を目指す住職さんと、地域に根ざして実施したいとする私たちがつながって実現。



えんちょうじ

圓頂寺 恵那市上矢作町本郷2959

5月31日(水) 14時～16時

(出入り自由・参加無料)

おてら de フラワーアレンジメント

当日、フラワーアレンジメント教室を同時開催します。
花が好きな方、趣味だったけど何年かかまっていなからやってみたい！方など30人まで参加できますので、申し込み時に参加について教えてください。
(要申し込み・参加無料)

申し込み…

恵那市役所 地域包括支援センター(西庁舎1階)

電 話 0573-26-2111 内線172

ファクス 0573-25-7294

◇申し込みがなくても参加できますが、飲み物等の準備のため、事前に申し込みいただくと幸いです。

◇電話やファックス、もしくは直接申し込みください。

注) フラワーアレンジメント教室を希望する方は、準備の都合のため、必ず申し込みください。

協力：スターバックスコーヒー恵那駅サービスエリア(下り線)店、
メモリアグループ 株式会社永遠ホール 恵那葬儀、圓頂寺



お寺の本堂で行うカフェ。

この日、偶然同級生に出会って、
笑顔で話し合う姿もみられました。

「またな！」という一言を聞いて
次に繋げたいという想いが膨らみます。



【「走る」ことをきっかけに新しい出会いとつながりを深める】

- 平成26年10月5日(日)実行委員会を立ち上げて、RUN伴を実施。(恵那～名古屋)
- 平成27年度は、より地域に密着した内容にするために、えなRUN伴PLUSに切り替え
- 平成28年度も、えなRUN伴PLUSとして開催。
いつも親身になって一緒に行動してくれる地元の企業の会長が実行委員長をつとめ、
新しいステークホルダーに広がっていく。
(H28年度から市は後援に。市民主体でジブンゴトとしてまちを動かす)



⇒⇒⇒恵那でRUN伴を実施するきっかけ

1年前・・・【認知症の人 本人による講演会の開催】(平成25年12月)



静岡県富士宮市在住
佐野光孝さんと妻の明美さん

インタビュアーは、
富士宮市役所の稲垣康次さん



富士宮市の担当者と
事前打ち合わせを行う中で、恵
那市出身で富士宮市内グルー
プホームで暮らす夏目さんの
存在を知る。
「故郷でも走りたい！」という
想いを聴く。

講演会の前(平成25年9月)には、佐野夫妻の暮らす富士宮市へ。
地域でどのように過ごされているのか、周囲にはどのようなサポーターが??
RUN伴2013で一緒に走ることで実際の様子を実感する。
⇒恵那市と富士宮市とのつながりのきっかけ・・・さらにつながりは深まり広がる



夏目さんの故郷周辺で働くスタッフが、
夏目さんの同級生捜しに奔走する。
「あの人に会いたい」企画



朝9時から恵那市役所前でゴールイベント開催! ランナー達をみんなで一緒に迎えよう!!

みんな集まれ!

RUN者とは「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」を目指して、みんなでタスキをつなぐランニングイベントです。沿道での応援やゴールイベントにぜひご参加ください。

9時 物販出店 ○フリーマーケット ○認知症への取組展示

10時 ○カーライズ (協賛: マリアージュ) ○認知症予防体操・コグニサイズ ○コーヒー (協賛: コーヒー専門店)

10時30分 ○ランナー道に届け! ハンド演奏

10時30分 ○参加者全員で風船飛ばし

ゆるキャラも応援参加!

RUN者でみんながつかえるタスキ

市民会館がメイン会場となります
詳細は当日の状況により若干変更になる場合がございます。
ご参加がございませぬのでご了承ください。

N伴+(PLUS)2016実行委員会まで
城包括支援センター内 電話0573-26-2111)

N伴+(PLUS)2016実行委員会 後援/恵那市地域包括支援センター



認知症地域ネットワークフォーラム2016を恵那市で開催

恵那市・名古屋市・豊橋市・富士宮市・焼津市など RUN伴でつながった仲間たち

⇒⇒ 対話から共に未来を考え、デザインする



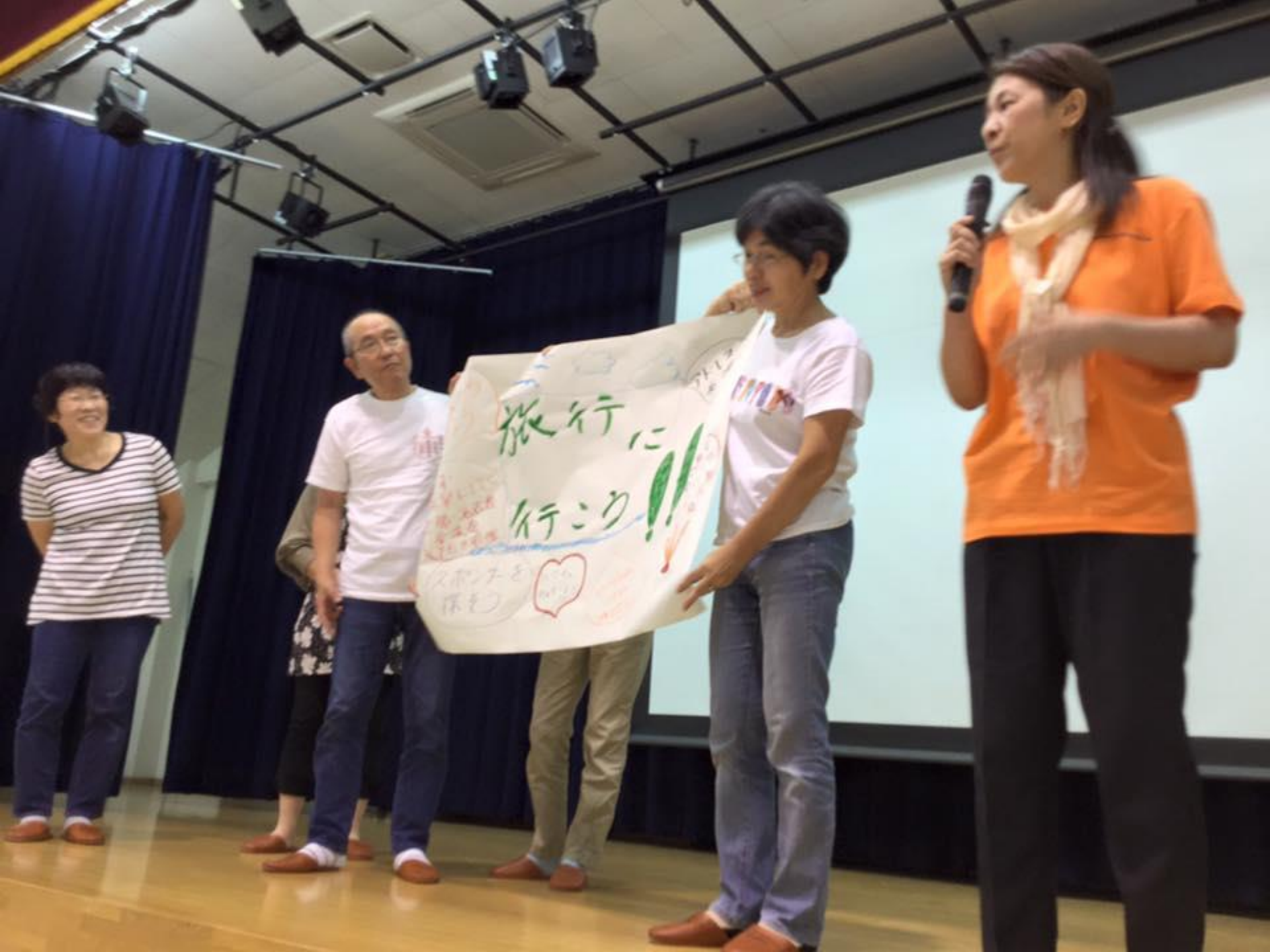
ビッグフィッシュボウル



マグネットテーブル



クイックプロトタイピング



旅行に
行くぞ!!

ポイント
保もつ

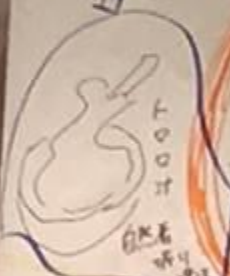


訪問活動

同じ・もりのついで、不った(職員)の野
おれをやる
お中儀

それぞれのお家で
「いい」を表現できたらいい

活動支援



仲間と話せる



湯本さん



竹岡さん

募集中
広島
10-11

外に出る
きっかけ
和症の経験
おれをやる



パートナー



アイジロ

今日も誕生!













公立病院内の多職種間で『病院として地域のためにできる事』を話し合う
国保上矢作病院（上矢作町）

認知症になっても、明るく笑顔で暮らせるまちへ

Dスマイルの 駄菓子 de カフェ

★好きな駄菓子を選んで、買える♪

★手作りケーキとドリンク付き♡

5月27日(土)
14時～16時

岩村コミュニティセンター
大ホール

参加費 100円

カフェ×駄菓子×認知症

認知症は治療できるの？
認知症の相談はどこへ行けば良いの？
など...

★サイコロを振って、認知症のことを知ろう！

プログラム

14:00 カフェタイムはじまり
駄菓子を選んで盛り上げよう♪

14:30 わくわくワークタイム
“サイコロを振って、認知症のことを知ろう”
いわゆるサイコロトーク！

16:00 おわり

認知症や介護の相談ができます。

認知症は誰にでも訪れる病気です。認知症になった時、人生を楽しむことを諦めずに済むように、地域が変わっていくことを目指して開催しています。

運営 主催 協力
D-smile
NPOくわのみ (0573-43-0148)
介護まちなか相談所・いわむらの憩
こころの丘・国保上矢作病院
中京学院大学 看護学部

※予約不要。誰でも参加できます。

朝日新聞厚生文化事業団助成事業

複数の福祉事業者・大学生・住民が協力してグループを結成。
認知症カフェを立ち上げ(H29.4～)
Dスマイルカフェ（岩村町）

- 4月から土日祝日を除く毎日、メイト宛てにニュースレター送信
⇒「認知症の人のこころの内」「まちづくり」「ADIなど社会のこと」「講座の進行」など
- キャラバンメイト・ネットワークミーティングの開催 (フューチャーセッション)
⇒メイト同士の連携のために「フレッシュな問い」を用意し、「対話」の場をつくる。
各々の思いの共有
自分たちが「まちづくり」に参加しているとワクワクする気持ちをもってステップアップ!
第1回目を5月31日(導入編) 第2回目を6月21日(計画のプロトタイプ) …



これからの 課題について

□ 担当者の活動当初と現在の意識の変化

「認知症の人を支える」 ⇒⇒⇒ 「共に考える・共につくる」

連携が深まることによって、
担当者や一緒に動いてくれる周囲の仲間が、
「こんな事をやったらおもしろいんじゃないか」って
いろいろ考えて実施できることはスゴイと思う。

…でもそれって、その人が望んで始めたことなのかな？
本来ならば、参加したい人が何をやりたいてことを、
その人の声を聴いてみんなで作り上げることが大切なんじゃないかな。。

⇒⇒『対話』からはじまる まちづくり を行っていく。

□ 担当者の活動当初と現在の意識の変化

「認知症の人を支える」 ⇒⇒⇒ 「共に考える・共につくる」

認知症地域支援推進員は、人と人・地域をつなぐ「HUB」の存在。

すべてを認知症地域支援推進員がやるのではなく、
一緒にやってくれる様々な新しいステークホルダーとつながる

あるときは、先頭に立ってグイグイひっぱるし、あるときは、裏方に回ってフォロー

今後の活動と 取組みの方向性について

【認知症連携連絡会から認知症フレンドシップクラブ恵那事務局(DFC)立ち上げへ】

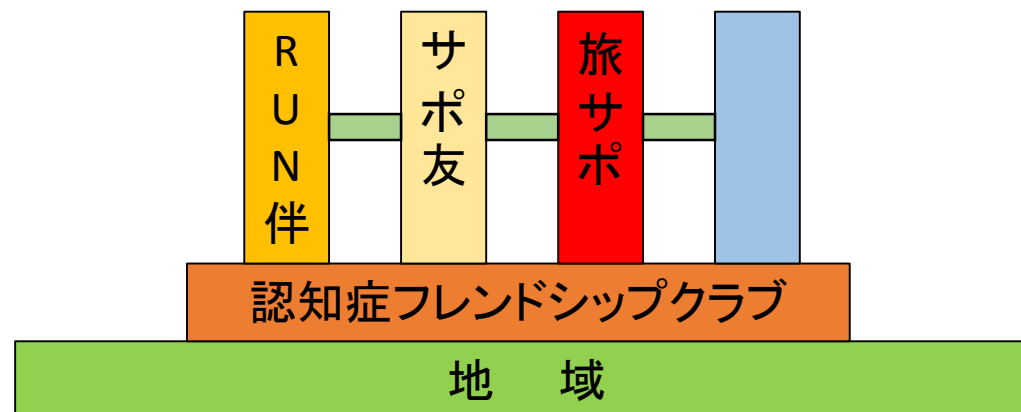
「一過性の花火のようなイベント」で終わらせない。

地域の人たちが「ジブンゴト」として考える
アクションにうつせるまち



「やりたい」を応援する！

2016.11.1設立



仲間と共に、早朝(6時)に 地域の拠点となる場所をリサーチ。(DFC活動として)

認知症バリアフリースポット(認知症にやさしい認定喫茶)の構想。
(元々、自分が馴染んで出入りしているお店が、一番足を運びやすいお店だし。。。)

【岐阜は喫茶店のモーニングサービス発祥の地】

11枚綴りのチケット制。「〇〇さん、最近こないなあ〜？」が分かる



今後の活動と取組みの方向性について



フォーラムでみんなで考えたアイデアを実際に具現化するためのミーティング
(リサーチ先の喫茶店にて)

お互いの先入観などで、中々つながっていなかった人やお店なども、ちょっとコチヨ・コチヨとすることで、じつは何かと想わぬつながりがあったり・・・トントン拍子で企画が進んでいったりするものです。そのためには、自分が何で「コレ」を行いたいのか、キチンとしたモノがあるかどうか。

リサーチから、「ちよい飲み喫茶」構想へ。(DFC活動として、近々はじまります。)



【提案】

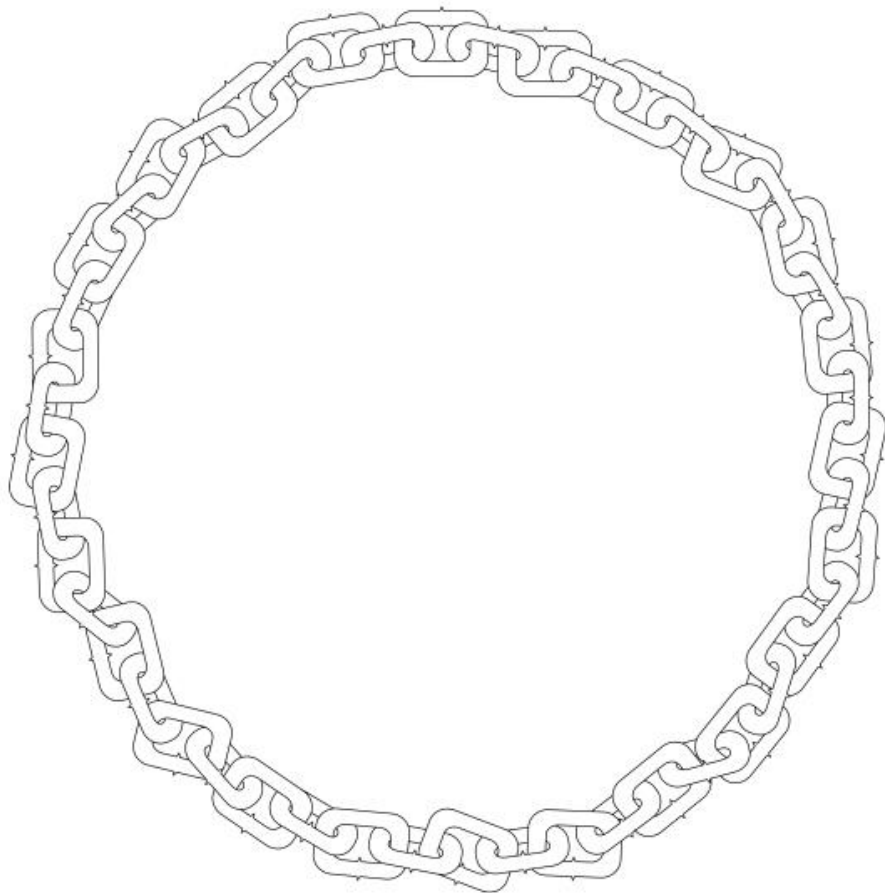
15時から17時くらいで、軽く一杯飲んで語れるちよい飲み企画。。。

「せんべろセット」と「呑まないセット」を女将さんに提案



いくら頑丈な鎖の輪であっても、1箇所が錆び付いてちぎれてしまったら・・・

ちぎれてしまったところが、その地域の現在の力なのでは??



『「あの人」に来てもらいたい！・「あの人」と一緒に〇〇したい！』という
ひとりひとりの顔が思い浮かばなければ、
地域を変えることなんてできない。

カフェやRUN伴、フォーラムの開催によって、『対話』の機会を次々とセッティング
『パワフルな問い』を用意してみんなでジブンゴトとして考える。
つながりはどんどんと深まり、「まち」を動かしてゆく。

1回1回が単発ではなく、参加されている人のことを知り、
『ひとりひとりのストーリー』をみんなで共有することで、
その人やその地域の可能性は大きくなってゆく



「フューチャーセッション」によって、対話から想いを知る。
ワクワク感からイノベーションを構想する



「ささゆりカフェ」でスターバックスコーヒーを知り、
店舗へお出かけするようになったK夫妻。



ご清聴ありがとうございました。